

# 先輩に続け

## 自分の能力を生かして 進路を決めるといふこと...

徳島市立高校教諭(美術)  
一般社団法人二紀会彫刻部準会員  
**武田 亜希子** (ただだ あきこ)



徳島市立高校記念モニュメント「月の譜」と

- 略歴 Profile**
- 2003年
    - 徳島大学総合科学部卒業
  - 2005年
    - 国府支援学校(美術教諭)
  - 2008年
    - 徳島市立高校(美術教諭)
- 主な作家歴**
- 2007年
    - 第22回国民文化祭野外彫刻展(全国公募)国民文化祭実行委員会会長賞
    - 第61回二紀展奨励賞
  - 2012年
    - 第66回二紀展準会員賞
    - みゆき画廊(東京・銀座)個展
  - 2013年
    - 第5回とくしま芸術文化奨励賞
    - 第5回とくしま芸術文化奨励賞記念 武田亜希子彫刻展(あわぎんホール大展示室)



河崎良行先生の指導



大学4年生頃の制作風景



みゆき画廊(東京・銀座)個展

私は1999年に徳島大学総合科学部に入学しました。入学されたみなさんはもしかしたら選択肢や領域が大変広いことや、インテリジェンスの多さに驚きや戸惑いを感じる人もいたかもしれませんね。何を選択していくかは、全て自らの判断に任せられているのですから。

私の場合は「美術の先生になりたい」そんな夢がまずあったので、その中で自分の進路をどう絞り込んでいくかは人より容易だったかもしれません。美術教員をめざしていた私にとっては様々な知識を取り入れられること、他領域の人たちと刺激しあえることも総合能力を培うために恵まれた環境でした。

彫刻を専門として選んだことは人生のターニングポイントだったかもしれません。1年生の頃から現在徳島大学名誉教授である河崎良行先生のもと彫刻制作に取り組みました。3年生になった頃、授業で金属材料による抽象彫刻に出会います。楽しくて夢中にな

り、なんとその研究や制作活動がもう10年を超えて、今でも専門に彫刻の制作活動をしています。さて、夢だった教員についてですが、現在私は徳島市立高校で美術科の担当をしています。美術教員に採用されてからは9年目となりました。徳島大学では教員免許も取得できます。私は中学校一種(美術)高校一種(美術)の教員免許を取っています。もし、徳島で美術の教員になろうという人がいたら気をつけて欲しいのが、現在徳島の美術の採用は中高一貫採用ということですので。できれば両方の免許を持ち合わせている方が無難でしょう。しかも現在の採用は非常に厳しく中高で毎年一名程度しか採用がありません。すぐに教員になるための資質や知識が身につくわけではないので在学中からコツコツ力をつけてください。私は非常勤で美術の教員をし、卒業して2年後に合格しました。夢の美術の教員になったときは本当に嬉しかったです。教員と彫刻家、この二つは間違いなく良い相乗効果

となつていきます。彫刻の制作を通して得た知識は生徒に創造性や個性を引き出すアイデアをたくさん与えてくれます。

市立高校50周年記念として中庭にモニュメントを設置しました。その効果は専門性を高めることによつて生徒への影響が大きいことを実感させてもらえる素敵な経験になりました。「今まで中庭や見なかったけど、モニュメントあつたらなんか見てしまおうわあ」こんな言葉がかかる中の中でガッツポーズしてしまいます。彫刻を設置することで、その環境を蘇らせることは大きな役割でもあるからです。同時に生徒がより身近に抽象彫刻に触れ、理解を深める機会になります。

私の彫刻は最近では公共の場に設置される機会も増え市立高校以外にも県庁対岸のみなど公園や銀座商店街、ポリテクセンターなど徳島大学から近いところでも私の設置した作品があるので機会があれば見てみてください。

在学生のみなさん、自らの適性や能力をしっかりと見極めて、その専門性を高めてください。そうすることで社会人として自信を持つて前進できる基盤を作っていることになるので、私は考えています。



## ノースカロライナ 留学記

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 再生修復医歯学部門 生体防腫瘍医学講座 環境病理学分野(医学系) 講師 **小川 博久** (おがわひろひさ)

平成9年医学部医学科卒の小川博久と申します。2011年2月よりアメリカ・ノースカロライナ州、Duke Universityに1年半留学していました。Duke Universityはノースカロライナ州Durham(ダーラム)にあります。州都ローリー、チャペルヒル、そしてDuke Universityのあるダーラムという3つの都市を頂点とする地域はリサーチトライアングルとよばれ、3つの大学や企業、研究所などが多数あり、Duke Universityはその一角に位置しています。広い敷地に、病院や研究施設、大学キャンパスがあり、またチャペルヒルや庭園、美術館なども所有し、ダーラム市内の町全体が大学と言わんばかりでした。最初の1年は細胞生物学研究室、JR Wright教授の下でサーファクタントプロテインA(SPA)とサーファクタントプロテインD(SPD)ノックアウトマウスを用いてダニ抗原喘息モデルを作り、サーファクタントプロテインの喘息に対する役割について研究していました。この研究室では徳島大

学からは呼吸器内科、後東久嗣先生、青野純典先生に続いて私で3人目の留学生でした。この1年でSPDは喘息を抑制し、SPAは逆に喘息を悪化させることを突き止めましたが、残念ながらJR Wright教授がご病気で亡くなら

れ、研究室が閉鎖になってしまいました。その後Duke Universityとの交渉の結果、留学期間を半年短縮したものの、共同研究をしていた呼吸器内科の研究室に移り、テーマをSPDの喘息気道線維化に対する抑制的役割の解明にしばらく日

本でできない動物実験を最後までさせていただきました。

ノースカロライナでの生活は私だけでなく家族もまた貴重な体験をさせていただきました。私と家族は、大学から車で30分ほど離れたSouthern Villageという住宅街

に住んでいました。緑が多く閑静なところで、いろいろな種類の小鳥やリスも町中でみられます。小学校や保育園もあり、近所に公園も多く、育児にも適したよい環境で生活できました。公園では各所にグリル台も完備してあったので、日本人家族のみなさんと休日にバーベキューも楽しめました。また車で4時間、飛行機だと1時間でワシントンDCやアトランタ、アウターバンクスなどの有名な観光地に行くことができ、残り半年に色々なところを回ってきました。

文化、習慣の違いも経験し、言葉の違いによる苦労や研究室閉鎖という不運な出来事もありましたが、最後まで、同じテーマで研究できたこと、移籍した研究室の教授や同僚の先生が親切に対応してくれたことなど、恵まれた点もあり、私にとっては貴重な留学生生活だったと思います。ぜひ皆さんも機会があれば短期でも留学されることをお勧めいたします。



Dukeチャペルにて、家族と



自宅より